



狭山市長 小谷野 剛氏

市長のメッセージ

狭山市は、武蔵野台地の豊かな自然に恵まれた住宅都市で、県内有数の工業都市でもあります。8月には「狭山市入間川七夕まつり」が開催され、多くの来場者で賑わいます。^{にぎ}「狭山茶」が特産で秋には野点^{の だて}の「さやま大茶会」も催されます。

現在、「第4次総合計画後期基本計画」に掲げる4つの重点テーマ「若い世代を増やす」「まちと産業に活力を」「楽しめる健康高齢社会を」「市政運営をみんなの力で」に沿って、未来につながる実効性の高い施策に取り組んでいます。今後も、情熱一番をモットーに、市民の皆さまと一緒に魅力と活力に満ちた持続可能なまちづくりを進めてまいります。

はじめに

狭山市は、埼玉県の南西部、都心から40km圏に位置し、川越市、所沢市、入間市、飯能市、日高市と接している。現在の人口は14万9千人となっている。

市内には、西武新宿線と西武池袋線の4つの駅があり、都心から1時間の便利な環境にある。道路は国道16号が市の中央部を走るほか、圏央道の狭山日高ICや関越自動車道の川越ICへのアクセスが良く、交通の利便性から2つの工業団地をはじめ、多くの企業が集積している。

市では、こうした特性を活かし都市としての持続可能性を高めるため、地域産業の活性化に向けた支援を充実させるとともに、都心からの玄関口である入曽駅周辺地区の整備を進めている。また、関係人口を増やすための観光資源として、潜在的なポテンシャルを有する入間川河川敷や智光山公園を多くの人が集まる憩いの場として再整備し、市の魅力向上につなげている。



Saya-Bizでの相談風景

☀ 狭山市ビジネスサポートセンター Saya-Biz

Saya-Bizは、市が設立した無料経営相談所。中小企業・小規模事業者の経営支援および創業支援を行っている。事業者の「稼ぐ力」を掘り起こす攻めの経営支援が特徴で、対話と傾聴により事業者が抱えるさまざまな課題を解決する。相談業務を支援の柱に据えながら、定期的にセミナーなどのイベントも開催している。

静岡県富士市から始まったこうした取り組みはBizモデルと呼ばれ、今では全国20カ所以上に広がっている。埼玉県内では狭山市が初めての設立となった。

Saya-Bizは、2019年4月に設立され、2022年3月までの3年間の相談件数は4,128件に上る。リピート率は9割を超え、相談に訪れる地域の経営者にとって、なくてはならない存在になっている。

相談件数のうち、サービス業が30.4%、小売業が14.0%、製造業が13.6%、飲食業が11.5%となっている。相談後のアンケートでは、98.5%が「大変満足」または「満足」と回答、「また利用したい」が98.5%、「知り合いにすすめたい」が99.5%と、利用者からは極めて高い評価を獲得している。

本年3月には全国でBizモデルを実践している自治体と、「全国Bizネットワーク」を立ち上げた。地域を超えた連携により、商品開発や販路拡大などさらなる強化を図り、中小企業・小規模事業者の支援につなげている。

狭山市概要

人口(2022年7月1日現在)	149,440人
世帯数(同上)	71,093世帯
平均年齢(2022年1月1日現在)	49.5歳
面積	48.99km ²
製造業事業所数(工業統計)	167所
製造品出荷額等(同上)	10,756.6億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	880店
商品販売額(同上)	2,876.1億円
公共下水道普及率	96.7%
舗装率	63.1%

資料:「令和3年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 西武新宿線 狭山市駅、新狭山駅、入曽駅
- 西武池袋線 稲荷山公園駅
- 圏央道 狭山日高ICから市役所まで約4km
- 関越自動車道 川越ICから市役所まで約7km

入曽駅周辺整備事業

狭山市駅隣の入曽駅周辺では、2024年度のまちびらきに向け、急ピッチで工事が進められている。

駅東口からすぐの場所にある入間小学校跡地に、事業の中核を担う商業施設として、イオンリテール株式会社の新業態「そよら」が出店する。地域最大のスーパーマーケットのほか、ブックカフェやキッズパーク、ドライブインシアターなどからなる複合型商業施設となる予定である。

学校跡地活用のほか、現駅舎を川越方面へ移動し橋上駅舎を新設、東口と西口に駅前広場をつくり、これを東西自由通路でつなぐ。さらに、新たな駅前道路を設ける計画で、駅周辺が大きく変貌する。

入曽駅周辺では、これまで交通事故の多発や、駅前広場がない、駅周辺の空き店舗が増えている、といった課題があったが、周辺の一体的な整備により、安全性、利便性の向上はもちろん、にぎわいの創出と地域の活性化が期待される。



入曽駅前にできる商業施設「そよら入曽(仮称)」

入間川にここにテラスと智光山公園キャンプ場

市内では相次いで新たなアウトドア施設がオープンし人気となっている。

市は2016年度から「入間川とことん活用プロジェクト」として、入間川に架かる新富士見橋と昭代橋の間にある「河川敷中央公園」の利活用について検討を進めてきた。同公園は敷地が广大で、狭山市駅西口から徒歩15分とアクセスしやすいところにある。

一昨年、同公園の愛称が公募により「入間川にここにテラス」(表紙写真)に決定。昨年3月にはスターバックスコーヒーが中核施設としてオープンし話題になった。河川敷への出店は全国初という。店内の天井には西川材を使用。テラス席も多く配置されている。

隣接地には、入間川の流れをイメージしたワイドな滑り台などの大型複合遊具、乳幼児向け遊具、芝生エリアがあり、多くの家族連れでにぎわっている。

また、本年3月には、智光山公園内のキャンプ場が、新たにワーケーション機能を備え、リニューアルオープンした。智光山公園は武蔵野の自然を生かした53.8haの広大な敷地にあり、都心にも近く、市内外から多くの利用者が訪れる人気スポットである。

車が停められる電源付きオートキャンプサイト、人気のソロキャンプサイトに加え、女性専用パウダールームやユニット式シャワールームが新設された。フリーWi-Fiを設置し、本格的なりもートワークにも対応、キャンプ場ワーケーションも楽しめる。

(樋口広治)